

都市再生整備計画

いりそえきしゅうへん だい かいへんこう
入曽駅周辺地区(第5回変更)

さいたま さやまし
埼玉県 狭山市

令和7年1月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	☐
都市再生整備計画事業	☒
まちなかウォークアブル推進事業	☐

計画区域の整備方針	
整備方針1: 駅前広場、アクセス道路の整備により、交通結節機能を向上させる ・現在、入曽駅は東西ともに十分な規模の駅前広場が整備されておらず、駅へのアクセス道路は歩道の無い道路となっている。駅東西の駅前広場とアクセス道路を整備することにより、歩行者にも自動車にも駅にアクセスしやすい環境を確保し、交通結節機能を向上させる。	方針に合致する主要な事業 【基幹事業】 ・道路事業 西口駅前広場 ・道路事業 市道B296号線、東口駅前広場、アクセス道路 【関連事業】
整備方針2: 歩行者の通行空間確保により安全で快適な道路環境を創出する ・現在は、歩道の無い道路が入曽駅へのアクセス道路となっており、自動車と歩行者が輻輳しているため、東西自由通路、橋上駅舎、駅前広場、アクセス道路を一体的に整備することで、歩行者が安全に通行できる動線を確保する。 ・また現在、入曽駅の東西の行き来は駅改札から200m程離れた場所にある踏切を通行しなくてはならないが、東西自由通路を整備することで、歩行者の安全性の向上を図るとともに、駅周辺の利便性、回遊性を向上させる。 ・駅前広場において乗降者用シェルター、点字ブロック等を整備し、誰もが利用しやすく、市の南の玄関口にふさわしい駅前環境を創出する。	【基幹事業】 ・道路事業 西口駅前広場 ・道路事業 市道B296号線、東口駅前広場、アクセス道路 ・地域生活基盤施設(人工地盤等) 入曽駅東西自由通路 ・地域生活基盤施設(情報板) 情報案内板 ・高質空間形成施設(緑化施設等) 駅前広場歩道部カラー舗装 ・高質空間形成施設(歩行支援施設、障害者誘導施設) 点字ブロック、乗降者用シェルター 【関連事業】 ・入曽駅橋上駅舎整備事業(市単独)
その他	
【関連する事業】 ・入曽駅東口土地区画整理事業により、駅前広場等の公共施設用地を生み出すとともに、敷地整序を行い、土地の有効活用を促進することで、地域拠点にふさわしい駅前環境を創出する。 ・入曽駅橋上駅舎整備を、東西自由通路、東西駅前広場整備と合わせて実施することで、安全かつ便利な駅周辺環境を創出する。	

目標及び計画期間

都道府県名	埼玉県	市町村名	狭山市	地区名	入曽駅周辺地区	面積	9.5	ha
計画期間	令和2年度～令和6年度	交付期間	令和2年度～令和6年度					

目標

大目標：入曽駅を中心とした安全で利便性の高い地域拠点の整備

目標1：入曽駅を中心に都市機能の充実を図り、駅周辺の利便性、回遊性を向上させることで、にぎわいのある魅力的な拠点整備を図る。

目標2：地区の交通安全性の向上により、安心して暮らせる生活環境の創出を図る。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

<経緯>

・入曽駅周辺地区は、第4次狭山市総合計画や狭山市都市計画マスタープランにおいて地域拠点として位置付けられる、狭山市の南の玄関口である。

・狭山市は、首都近郊の住宅都市として、また優良な企業が多数立地する埼玉県内有数の工業都市として、発展を続けてきた。しかし近年、人口急増期に転入した市民が高齢期を迎え、少子高齢化と人口減少が続いている。また、同時期に整備された公共施設やインフラが老朽化するなど、まちの魅力や活力を維持していくことが困難になってきている。狭山市は、このような社会情勢の中においても、市民が将来にわたって快適に暮らせる生活空間を形成することを施策の大綱として掲げ、駅周辺などの「まちの拠点」に、都市機能の集積を図るとともに、これらの拠点を結ぶ幹線道路や公共交通機関を充実し、良好な交通ネットワークを構築することを目指している。また併せて、歩行者や自転車の通行空間を確保するなど、安全で便利な道路環境を整備することを目指している。「まちの拠点」の一つ、地域拠点に位置付けられる入曽駅周辺地区においても、都市機能の集積、安全で便利な道路環境整備が求められている。

・現在、入曽駅前には、十分な規模の駅前広場が整備されておらず、駅へのアクセス道路は歩道が無く、歩行者と車両が輻輳している状態である。狭山市都市計画マスタープランにおいては、駅前広場や駅への利便性を確保するアクセス道路の整備・改善、歩行者の安全性の確保が目標として掲げられている。また、住民の日常生活を支える地域拠点として、商業施設やコミュニティ施設などの都市機能の確保も進めるとされている。

・当地区においてはこれまで、地域拠点としてふさわしいまちづくりを進めるため、市街地開発事業の実施を目指し、長きにわたり、権利者との合意形成が図られてきた。しかし、一部地権者の理解が得られず、平成25年5月に土地区画整理事業による市街地開発の実施は断念された。

・しかし上述の通り、当地区には交通対策などの解決すべき地域課題が山積していることから、市の重要課題としての位置付けは継続され、課題解決に取り組む方針が堅持されてきた。

・こうした中で、市は近年、地区内に更地状態で残されている入間小学校跡地の有効活用と駅前広場等の都市基盤整備を実現に向け、整備手法の調査・検討を進めてきた。平成29年度には基本計画を策定し、入間小学校跡地とその周辺敷地のみで土地区画整理事業を実施し、駅前広場やアクセス道路等の基盤整備と、入間小学校跡地への商業施設誘致を行う方針が示された。

課題

・入曽駅は東口、西口ともに十分な規模の駅前広場が整備されておらず、交通結節点としての機能が弱い状態である。また、駅へのアクセス道路は歩道が無い状態であり、歩行者と車両が輻輳しているため、歩行者の安全性確保が必要である。

・現在、歩行者は駅から200mほど離れた位置にある踏切を利用して線路の東西を行き来している状態であるため、自由通路を設け、駅東西の往来のしやすさ、地区の利便性、回遊性を高めることが望まれる。

・駅周辺には店舗が集積しているものの、地域の活力は低下している。地域拠点として、利便性の高い生活環境を確保するため、商業施設やコミュニティ施設などの拠点にふさわしい都市機能の確保が望まれる。

・入間小学校跡地が更地状態で残されており、公共資産の有効活用の観点から、土地利用を図ることが望まれる。

将来ビジョン(中長期)

【第4次狭山市総合計画(平成28年3月策定)】

・狭山市駅周辺を市の中核拠点、入曽駅、新狭山駅、稲荷山公園駅の各駅周辺を地域拠点として位置付け、少子高齢化や人口減少によりまちの魅力や活力の維持が困難な情勢の中においても、市民が将来にわたって快適に暮らせる生活空間を形成するため、駅周辺の拠点に都市機能の集積を図るとともに、これらの拠点を結ぶ幹線道路や公共交通機関を充実し、良好な交通ネットワークを構築する。また、歩行者や自転車の通行空間を確保するなど、安全で便利な道路環境を整備する。

【狭山市まち・ひと・しごと創生総合戦略(平成28年3月策定)】

・総人口が減少傾向にある狭山市において、入曽地区は市全体の平均よりも人口の減少率が大きくなっている。人口減少を抑制しながら、市民が快適な日常生活を送ることができる地域づくりが必要とされている中で、公共施設跡地を利用した拠点整備を進めるとともに、空き家の利活用やリノベーションを通じた魅力的な住宅の供給を促進し、公共交通や医療の充実、防犯防災対策等を通じた安全安心なまちづくりを推進する。入間小学校跡地については民間活力を活用し、入曽駅前の活性化に資する新たな拠点整備を図る。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
踏切を横断する歩行者交通量の減少	人／日	入曽駅北側の踏切(県道川越入間線)における平日午前7時から午後7時の歩行者交通量	東西自由通路を整備することで、踏切を通行する歩行者が減少し、駅周辺の利便性、回遊性及び交通安全性の向上を示す指標	204	R1	180	R6
自動車による駅利用者数の増加	人	入曽駅における平日始発から終電までの時間帯の自家用車(送迎)での駅利用者数	駅前広場及びアクセス道路整備により、駅周辺の利便性の向上を示す指標	566	H29	623	R6
エリア内の店舗床面積の向上	m ²	計画区域内の商業施設床面積	駅周辺のにぎわい、魅力創出に資する都市機能の充実を示す指標	4,500	R1	7,700	R6

様式(1)-④-2

(金額の単位は百万円)

...A

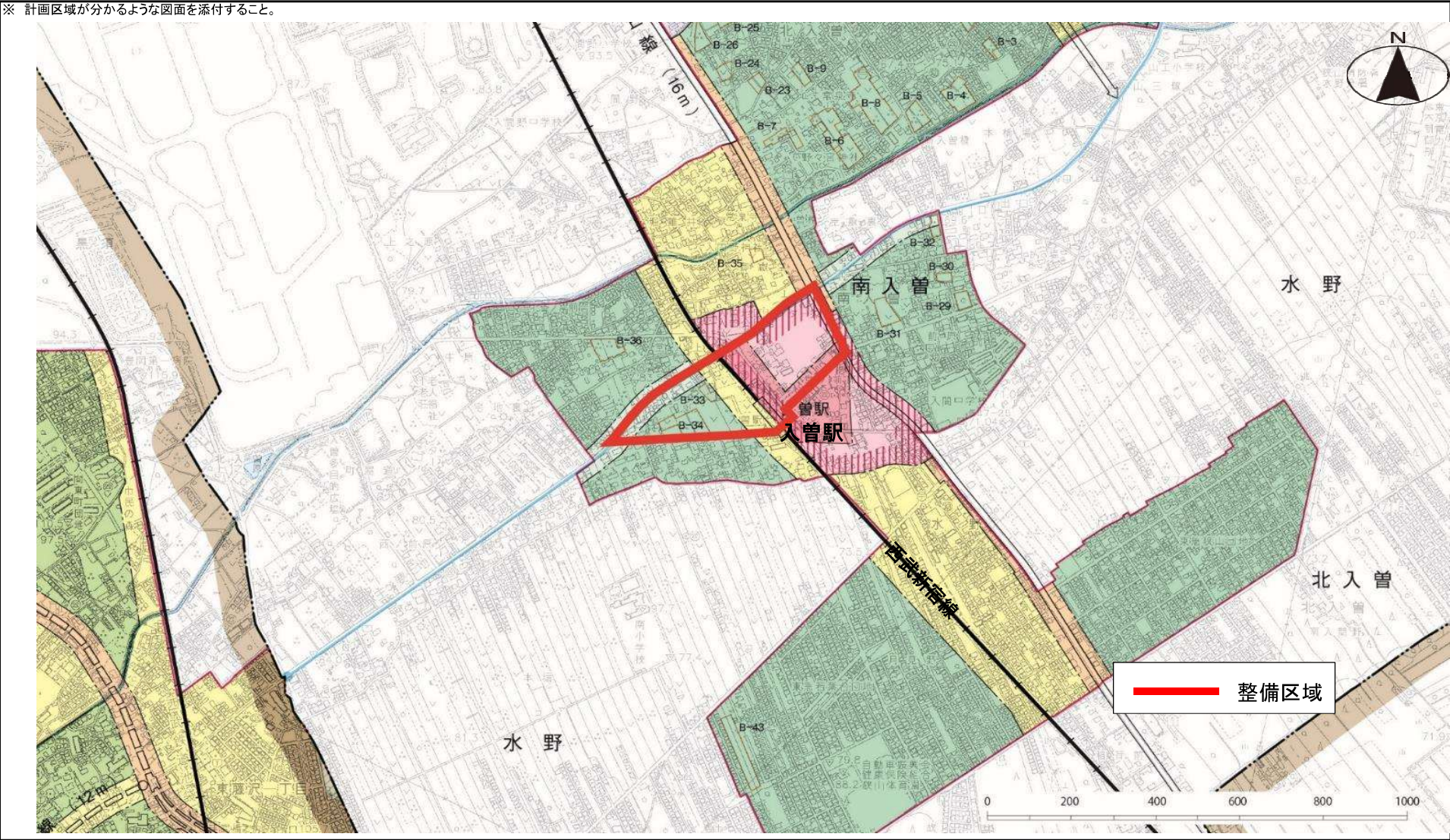
...B

03.571

都市再生整備計画の区域

入曽駅周辺地区(埼玉県狭山市)	面積	9.5 ha	区域	西武新宿線入曽駅周辺(南入曽の一部)
-----------------	----	--------	----	--------------------

※ 計画区域が分かるような図面を添付すること。



入曽駅周辺地区(埼玉県狭山市) 整備方針概要図(都市再生整備計画事業)

目標	大目標: 入曽駅を中心とした安全で利便性の高い地域拠点の整備	代表的な指標	踏切を横断する歩行者交通量の減少 (人/日)	204 (R1年度)	→	180 (R6年度)
	目標1: 入曽駅を中心に都市機能の充実を図り、駅周辺の利便性、回遊性を向上させることで、にぎわいのある魅力的な拠点整備を図る。		自動車による駅利用者数の増加 (人)	566 (H29年度)	→	623 (R6年度)
	目標2: 地区の交通安全性の向上により、安心して暮らせる生活環境の創出を図る。		エリア内の店舗床面積の向上 (㎡)	4,500 (R1年度)	→	7,700 (R6年度)

